

# 少人数のゼミで 専門分野の知を 究める

中央大学文学部には、人文社会科学の多様な学問領域をカバーする13の専攻があり、それぞれの視点から、時代を超えた人間と社会のあり方を探求しています。深い専門知識と幅広い教養を身につけるために、学生はどのように学んでいるのでしょうか。今回は13専攻の特徴的なゼミをご紹介します。

What's  
New!  
文学部  
Faculty of Letters



## 人間と社会の今とこれからを 13の視点から考えます

文学部には、国文学・英語文学文化・ドイツ語文学文化・フランス語文学文化・中国言語文化・日本史学・東洋史学・西洋史学・哲学・社会学・社会情報学・教育学・心理学の13の専攻があります。

文学部の特徴はきめ細やかな深い学びです。学生は基礎演習や専門演習などの少人数のゼミに所属して専門分野の研究能力を磨きます。同時に、他専攻の科目の中からも自分に必要な授業を自ら選んで学ぶことで、幅広い教養を身につけることをめざします。700に迫る多彩な専門科目のほぼ半数が専攻の枠を超えて履修可能です。

文学部の学びは多様です。現代に特有の文化現象や社会現象を考察することもできれば、人間と社会のあり方を、歴史を遡って考えることもできます。自分の選んだ研究課題に応じて、緻密な文献講読・調査から学外のフィールドワークにいたるまで、問題解決の方法もさまざまです。

この多様性の中でもすべての専攻に共通するのは、教養に支えられた専門知をもつことで、世界の急激な変化や多様化に対応できる人材として社会に羽ばたく準備が整えられるということです。文学部での学びの成果は98%を超える高い就職率にも表れています。

## 国文学専攻

「ゼミナール」

宇佐美 毅 教授

**研究テーマは多種多様  
小説、映画、ドラマ、アニメなど……でもガチゼミです！**

文学部のなかでも、ゼミ制度は専攻によって異なります。国文学専攻では、同じ履修者による3年生、4年生合同の2年連続ゼミが必修です。他の多くの半年授業科目とは違って、まるでサークルのような一体感が出てきます。さらに宇佐美ゼミでは、ゼミ合宿、懇親会、報告集制作と、ゼミ生同士が協力して行うイベントも多く、それを通じてより一層結束が固まります。そのせいか、研究テーマは自由ですが、「宇佐美ゼミはガチゼミ」との評もあるそうです。でも、ガチじゃないゼミってゼミなんですか？せっかく大学で学ぶなら、ガチで勉強して、ガチで楽しもうじゃないですか。



ゼミ合宿恒例バレーボール大会

## 英語文学文化専攻

「英文専門演習」 木村 明日香 助教

**400年の時空を超えられるか？  
シェイクスピアを通じて  
現代社会を問う**

シェイクスピア劇を毎年1本取り上げ、堅固な言葉の壁を辞書や注釈本を頼りに乗り越えながら読んでいきます。シェイクスピアは16〜17世紀イギリスの作家ですから、21世紀の日本に住むゼミ生たちには遠い存在に見えますが、彼らが精読という伝統的な手法をとりつつ、自分たちの実生活や現代日本のあり方と絡めて作品を読み解く柔軟さには圧倒されます。2019年度は二つのジェンダーを行き来するキャラクターに焦点を当てていることもあり、自分の性のあり方に小さな疑問を抱いている学生や、異性っぽく振る舞うことに興味のある学生も参加しています。当ゼミの最大の特徴は個性豊かなゼミ生たちにあり、教員の仕事は自由な発言を促す雰囲気作りにあります。古い英語を丹念に読み解くのが得意な学生、豊富な演技経験を披露できる学生など個々の良さを引き出しながら、シェイクスピアを通じて人や社会とつながり、自分たちのさらなる可能性に気づいてもらえることをめざしています。

## ドイツ語文学文化専攻

「ゼミ演習」 羽根 礼華 准教授

**学んだ知識をフル活用して  
文学を読む**

私たちのゼミ演習では、実践を通して文学研究の方法を身につけます。学生の口頭発表や、学生が立てた問いを出発点とする議論は、授業の根幹です。これまでに学んだドイツ語は、専門文献を読む手段となります。2019年度の授業で扱うクライストの『ペントテジレーア』は、ギリシア神話に取材した戯曲ですが、登場人物の性格は19世紀初頭のドイツ社会に流布していた男女のイメージと関わりを持ち、その分析は現代の文化・社会の考察にもつながります。1・2年次の授業で学んだギリシア・ローマ文化やドイツの歴史・社会の知識、比較研究の視座が、テキストの分析と解釈に生きてくるのです。



授業で扱う文献の一部

## フランス語文学文化専攻

「仏文専門演習」 ミカエル・フェリエ 教授

**世界のなかのフランス語文学、  
フランス以外のフランス語文学  
を発見するー多様性、混血性、  
新たな語りの形**

フェリエゼミでは、ヨーロッパ（フランス、ハンガリーなど）、アフリカ（マダガスカル、セネガルなど）、北アメリカ（ケベックなど）、アジア（ベトナムなど）、カリブ海地域（マルチニークなど）、インド洋地域（レユニオンなど）のフランス語表現の現代作家たちについて、それぞれの地域について、言語・経済・文化の状況を紹介しながら、彼らの作品を抜粋で読んでいきます。そして、これらの作家たちがフランス語表現にもたらした豊饒さと新たな可能性（多言語状況、新たな語りの形）、問いかけ（文化的アイデンティティ、多様性、混血性）を発見しようとしています。



フェリエゼミの授業風景

## 中国言語文化専攻

「中国近現代文学演習」 飯塚 容 教授

**中国現代演劇の脚本を  
ラジオドラマのように演じる**

中国では、西洋近代劇の影響を受けて成立した現代演劇を「話劇」と呼びます。この授業では、まず話劇脚本の日本語訳を音読します。履修者は10人程度のグループに分かれて、それぞれ役柄を演じるのです。最初は感情を込めてセリフを言うことができませんが、慣れてくると演劇の楽しさを知ることができるようになります。次は原文による読み合わせです。難易度はぐつと上がりますが、生きた中国語表現に触れて会話能力が向上します。最後は各人がレポーターをまとめます。劇作家や演出家の意図、上演状況と反響、欧米や日本の演劇との比較などを通じて、中国の歴史、文化、社会への理解が深まるでしょう。



脚本読み合わせの様子

## 日本史学専攻

〔日本史演習〕

宮間 純一 准教授

**歴史資料と対話しながら  
〈いま〉を考えるために  
過去を検証する**

歴史学は、遠い昔のことをひたすら探求する印象をもたれがちです。ある面ではその通りですが、取り組むテーマは興味本位に選択されるのではなく、私たちが〈いま〉を考えるために研究しなければならない課題から選ばれます。日本近代史のゼミでは、〈いま〉を見据えながら、各自が主体的に設定したテーマを、歴史資料と向き合うことにより解決していきます。多様な資料に触れ、対象地域や事件の現場を訪れ、その成果をゼミで報告し、卒業論文を執筆します。卒論の作成過程で生じた葛藤や、歴史資料が教えてくれたことは、現在の社会を見る目を確実に養ってくれるはずです。



地域に伝わった明治元年の古文書  
(関家文書イ16、千葉県文書館蔵)

## 東洋史学専攻

〔イスラーム地域史演習〕 松田俊道 教授

**ゼミ生同士が知恵を出し合って  
意見交換  
知的好奇心が生み出す  
最良の成果を卒業論文に**

ゼミの大きなテーマは中東のイスラーム史です。履修者は、それぞれ自分の問題関心からテーマを設定します。それに沿って学んだ成果を発表すると、ゼミ生同士が知的好奇心を発揮して鋭い意見交換が始めます。その繰り返しにより、研究がさらに深まります。また、エジプトやトルコなどの国々をゼミ生が訪問して帰国後に体験談を語り、その文化にも触れる機会が多くあります。夏休みには野尻湖にある大学のセミナーハウスで合宿を行っています。普段よりも長時間のゼミを行います。野尻湖周辺の散策なども行っており、3年生と4年生が交流を深めます。語学力をつけてアラビア語の史料を読んだりもします。



豊富なアラビア語史料とゼミ生たち

## 西洋史学専攻

〔西洋史学特別演習〕 松本悠子 教授

**めまぐるしく変わる世界の中で  
自分を見失わないために、  
歴史を学び、世界を見直そう**

西洋史学専攻では、5人の専任教員が3年生を対象に、それぞれ特別演習(ゼミ)を開講しています。私のゼミは、私の専門であるアメリカ現代史が中心ですが、時代的にも地域的にも限定することなく、多様な学生の興味を大切にしたいと考えています。2019年度のゼミでも、学生のテーマは冷戦、少数民族、ジェンダー、ファッションの歴史など多岐にわたっています。学生は各自の研究を発表し、互いに議論を重ね、一人では気づかなかった視点や分析方法を学んでいます。フェイクニュースに振り回されている昨今、確実な情報を見分け、分析することを学ぶことは、歴史を学ぶ大きな利点です。



歴史の一コマ。1913年3月3日、アメリカ合衆国・ワシントンDCの女性参政権を求める行進。アメリカの象徴の女神コロンビアに扮して

## 哲学専攻

〔哲学演習〕

大川 真 准教授

**自分の内なる〈こだわり〉を  
他者に開示し、合宿を通じて  
徹底的に語り合う**

都心の他大と比べ、中大の学生たちはとても真面目でシャイな傾向がありますが、哲学専攻は輪をかけてその傾向が顕著に見受けられます。基本的な哲学という学問は、思想家が遺した文章群に対して徹底的に孤独になつて向き合う作業です。しかし、他者に対して自分の思考の軌跡を示していくことも、自らの思想を鍛錬する意味でも重要です。大川ゼミ(卒業論文ゼミ)では、2泊3日の合宿を通じて、3年生には研究構想を、4年生には研究成果を発表してもらいます。また寝食をともにして、互いの趣味や世界観を和気藹々、ときには真面目に語り合い、ゼミ生同士の連帯と結束を強めていきます。



ゼミ合宿での発表の様子(2019年2月、石和温泉にて)

## 社会学専攻

〔社会学演習〕

矢野 善郎 教授

**活発な議論を通して  
次の社会を構想する人間を  
送り出す**

ゼミの看板は、理論と議論。年度末の公開ディベートが伝統(たとえば「日本の労働問題」などについて、班ごとの構想の是非を争い合う)。夏もディベート漬けの合宿。近年はグローバル・スタディーズと連動し、韓国・台湾・タイなどの大学を訪問。社会を比較するディベートを英語・日本語で行う。日頃は卒論に向けての各自の発表。テーマは制約なしなので毎回異なるが、議論はいつも活発。ゼミ全体がさまざまな視点を提供し、発表者を手助けする。



韓国(ソウル・中央大学校)でのディベート風景

ハードとも  
言えるゼミ  
活動。特に  
ディベート  
は事前準備  
が必要。だ  
が、学生が  
自ら選んだ  
ゼミ長を筆  
頭に食らい  
ついてきて  
くれる。頼  
もしい。

## 社会情報学専攻

〔社会情報学演習〕

辻泉 教授

**グローバル化する日本のポピュ  
ラー文化について、学生たちが  
「ガチ」で掘り下げるゼミ**

辻ゼミの目的は、ポピュラー文化の実態を通して現代社会を理解することです。そのように、ごく身近な現象から社会全体を見通していくことが、文化社会学の醍醐味です。

オタクやファンといわれる人々に典型的であるように、さまざまなメディアに接しながらモノや情報を消費しつつ、仲間とともにそれを楽しむといつたふるまいは、今日の社会を生きる多くの人々にあてはまるものです。

ただ、ポピュラー文化とは楽しいものですが、辻ゼミではそれを楽しんで終わらせてしまうのではなく、むしろ研究対象として、学生と教員がともに、大真面目にその実態分析に取り組んでいます。



ゼミではフィールドワークも推奨しています(写真は、観光地化する渋谷スクランブル交差点)

## 教育学専攻

〔教育実地研究〕

鳥光 美緒子 教授

**自ら設定した教育問題を  
地域の実情に即して  
追究する**

3年次、必修、通年の授業です。専攻の教員全員が担当します。

全国の都道府県から、学生たち自身の討議で一つの地域を選び、調査するテーマを決定します。

テーマが決まると、今度はテーマごとに編成された班に分かれて、問題設定を練り上げ、訪問先を決定し、先方とのやり取りをして、訪問日程を決めます。訪問するのは例年、6月最終週の1週間。戻ってくる今度は、報告書の作成準備に取りかかります。

調査研究の初歩を学ぶだけではなく、ちよつとした社会的な訓練にもなっています。この活動で得た知見が卒論につながることも多いようです。



三重県訪問に向けて討議中の多文化教育班の学生たち

## 心理学専攻

〔心理学特殊研究〕

兵藤 宗吉 教授

**やる場所はしっかりやる、  
楽しむところは  
とことん楽しむゼミ**

兵藤ゼミでは、記憶・感情・言語の分野に注目し、実験を主とした研究を行っています。3年次にはグループ研究や卒論に関わる個人研究を行い、4年次には3年次に学んだことをもとに卒論を完成させます。

授業外の活動としては、ゼミ生同士の親睦を深めるためにワインパーティーを開催したり、夏休みには東京を離れてゼミ合宿を行ったりします。授業自体は楽ではありませんが、研究チーム(兵藤や院生)の



研究に取り組む兵藤ゼミ

バックアップ  
がとてもしつ  
かりしている  
ので、不安な  
ことはすぐ  
に相談できま  
す。研究は大  
変ですが、自  
分の期待した  
結果が出た瞬  
間、喜びや楽  
しさに変わ  
ります。

## 1

### 専攻を超えた学びを支援する 新しい演習を開設 横断型の学びで幅広い教養を

#### 教養総合演習

2019年度に新規開講されたこの科目は、専攻の枠にとらわれない学びを追求する「専攻横断型」の演習です。いろいろな専攻で多様な専門科目を学ぶ学生が受講し、受講生それぞれがそれぞれの学問の専門家として参加します。自分の専攻で得た知識や研究手法を活かしながら、皆で一つのテーマを考えていくなかで、異なる視角や意見に触れ、自分の研究にフィードバックすることを目標としています。

今年度は次の2つのテーマで開講しています。

#### テーマ／移民・難民研究 担当／中坂 恵美子 教授

国際社会に関連する問題を扱い、本年度は、国境を越えた人の移動をテーマとしています。世界と日本の移民・難民の歴史と実態について概観的にとらえたあと、受講生の関心に合わせて学んでいきます。

複雑な国際社会を理解するうえでも役立つ、基本的な知識や多面的な考え方を身につけることをめざします。

#### テーマ／ミュージアムと社会 担当／横山 佐紀 准教授

ミュージアムと社会がどのような関係をつないでいるのかを、文献講読を通じて考察しています。講読は日本語の文献を取り上げ、また、実際に美術館なども見学します。

美術館、博物館、コレクション（ものを集めること）、展示などに関心のある学生におすすめの演習です。



## 2

### 意欲のある学生を支援する 文学部独自の奨学金制度 学外での学びをサポート

文学部では在学中に留学や調査活動、ボランティアなどに積極的に取り組む学生を支援するためのさまざまな制度を用意しています。たとえば海外留学は短期間の語学留学から、半年または1年間の交換留学、留学先を自分で選ぶ認定留学まで、目的に応じて選ぶことができます。こうした海外留学や国内外での学外活動を支援する奨学金制度も充実しており、毎年多くの学生が奨学金を利用して学外での学びを経験しています。

#### 海外留学を支援する奨学金

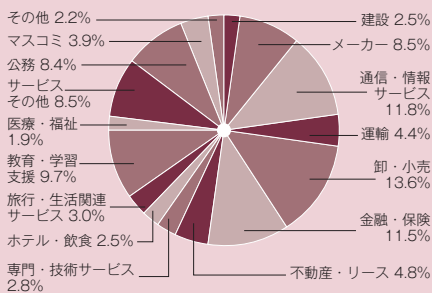
奨学金名	対象	給付額(年間)	給付人数(年間)
文学部短期留学プログラム給付奨学金	中央大学短期留学プログラムに参加する学生	18万円	20名程度
文学部長期留学奨励奨学金	中央大学の長期留学(交換・認定)制度を利用して留学する学生	留学期間1年の場合 ／36万円 留学期間半年の場合 ／18万円	15名程度
文学部フランス語圏派遣留学生特別奨学金(卒業生篤志家寄付)	中央大学文学部の卒業生である中安ちか子氏の篤志を尊重し、文学部に在学する成績優秀な学生で、中央大学の長期留学制度を利用してフランス語圏に留学する学生	留学期間1年の場合 ／最高50万円 留学期間半年の場合 ／最高25万円	4名程度

#### 学外活動を応援する奨学金

奨学金名	対象	給付額(年間)	給付人数(年間)
学外活動応援奨学金	国内外でフィールドワーク、ボランティア、インターンシップ等に取り組む学生	10万円、20万円、30万円のいずれかを選択	20名程度

## What's New!

【2018年度 文学部卒業生 業種別就職状況】



### 文学部生(2018年度卒業)の就職状況と傾向

文学部卒業生の就職先はさまざまな業種にわたっています。なかでも主要な業種は、■卸・小売 ■通信・情報サービス ■金融・保険 ■メーカーとなっています。また、他学部に比べて教育・学習支援業に就職する学生が多いのも特徴です。文学部で学んだ「知識」と「教養」と「課題へのアプローチ・スキル」は社会で高く評価され、2018年度の就職率は98%を超えています。

## オーストラリアに短期留学 (短期留学プログラム給付奨学金受給)



スウィンバーン工科大学校舎



オーストラリアでは落書きも「アート」

大学2年間で学んだ英語力を試してみたいと考えて、オーストラリア・スウィンバーン工科大学での短期留学に参加しました。日本での生活と違い、日常会話がすべて英語という環境では日本語で考えて変換するのでは追いつかず、即座に英語でアウトプットすることが求められるため即応力が鍛えられました。また、英語での会話においては、「自分の気持ちを伝えたい」という意思がいかに大切かも実感しまし

学外での  
学び  
1  
短期留学と  
ゼミで学ぶ  
さまざまな「英語」

現在ゼミでは、アメリカの小説や映画を取り扱い、言葉に込められた意味や登場人物の行動の意味、時代感覚を考察するという研究を行っています。もともと大学では英語力を身につけたという思いがあったのですが、留学やゼミを通じて、生きた英語から多様な世界観を表現する言葉まで、さまざまな切り口で「英語」を学ぶ機会に恵まれます。想像以上の力がついたと実感しています。これから本格的な就職活動が始まりますが、大学で得たこの「英語力」を活かせる仕事に就きたいと考えています。

た。短い期間ではありましたが、さまざまな国から来た留学生やホストファミリーと喜怒哀楽を分かち合うことで「生きた英語」に触れることができた貴重な体験となりました。



のぐち あきなり  
**野口 暁生**

文学部人文社会科学科英語文学文化専攻3年  
東京都立清瀬高校出身

## パリで調査活動を実施 (学外活動応援奨学金受給)



パリにあるコスロリファッションのショップ



「Expo Paris Manga」でコスプレを楽しむ人たち

近年、日本のポップカルチャーを「日本らしさ」としてアピールするクールジャパン政策が進められています。そのなかで日本のマンガやアニメ、ファッションが世界ではどのような受け入れられているのか、最先端の文化が集まるパリで調査研究を行いました。フランスでは1970年代から日本のアニメがテレビ放送され、2000年からは「Japan Expo」というイベントが継続的に開催されるほど日本のポップカルチャーの人気は高いです。私は昨年10月にパリを訪れ、

学外での  
学び  
2  
日本のポップカルチャーは  
本当に世界に通用するのか  
パリで調査しました

「好きな人」を主な対象としましたが、今後は対象を広げ、一般の人々にはどのように受け取られているのかを調査・研究し卒業論文につなげていきたいと考えています。

「Expo Paris Manga」というイベント、市内の書店、マンガ喫茶、ケラー通りと呼ばれるオタク系のショップが集まる地域を訪問し、インタビューを行いました。結論から言えば、マンガやアニメ好きの人々は純粋にストーリーやキャラクターを楽しんでおり、特に「日本的」なものを感じていない、ということでした。むしろ日本のポップカルチャーの「無国籍性」こそが受け入れられている要因であり、「日本らしさ」を強調しようとするのは日本側のエゴに過ぎないのかもしれない。



かじ た り え  
**梶田 理恵**

文学部人文社会科学科社会学専攻4年  
愛知県立旭丘高校出身